

号外

硬式野球部

1 明星部 復讐へし

首都大学リーグ

城西大学硬式野球部が底力を見せつけ、本来の「定位置」である首都大学リーグ1部に戻った。
リーグ優勝の実績もある本学野球部は、2011年春季に1部最下位、そして2部落ちする屈辱を味わった。今回、4季ぶりの復讐となるわけだが、この間、監督、選手や大学関係者は、無念の気持ちを抱きながら「捲土重来」を期していたはずである。

スポ



▲2回戦で完封の活躍を見せた鐘
▲1回戦でサヨナラヒットを放った大杉
▲1回戦先発の直塚
写真はいずれも2部リーグ優勝決定戦での桜美林戦

首都大学1部2部入替戦は、10月27日(土)、28日(日)に東京大田区の大田スタジアムで行われた。城西大学は、首都大学2部リーグAグループでの優勝を果たし、2部の優勝を決める「2部リーグ優勝決定戦」でBグループ優勝の桜美林を降した。勢いに乗る城西大学は、入替戦で1部リーグ最下位の明星大と対戦した。入替戦は2戦先勝方式で行われ、2連勝した城西大学が、4季ぶりの1部復帰を果たした。

1回戦(延長13回)
1回裏城西大は、塩田が三塁打を打ち出塁すると村田の適時打により1点を先制する。
4回裏にも城西大は、四球を選び斎藤達が出塁、犠打で進塁。大杉の適時打が打球をそろしてしまいその間に大杉自身も一気に塁を回り生還。30とする。
対する明星大は5回表、朝川が相手失策を誘い出塁し、小林、生方が連続安打を打ち無死満塁。続く金島が併殺打を放ちその間に朝川が本塁を踏み1点を返す。
更に6回表にも明星大は、渡辺弘が二塁打を打ち、二死から稲草の適時二塁打で1点。その後鈴木木の適時打で2点を追加し、試合を振り出しに戻す。
明星大・先発鎌田の好投、城西大は投手陣の継投策を使い両者一歩も譲らず延長戦へ突入する。
13回裏城西大は、西田、田辺、須郷が四球を選び出塁し一死満塁。大杉がサヨナラ打を打ち試合を決めた。
城西大は明星大に4-3で勝利した。

1回戦	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	R
明星大学	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	3
城西大学	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	X	4X

投手
明星 ●鎌田
城西 直塚、増田、根岸、高崎

2回戦	1	2	3	4	5	6	7	8	9	R
城西大学	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
明星大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

投手
城西 ○鐘
明星 ●塚原

2回戦
城西大・明星大の2回戦は城西大・先発鐘(たたら)、明星大・先発塚原の投手戦となった。試合が動いたのは7回表。城西大は、村田が相手失策で出塁すると、長塚が安打を打ち一死、三塁。その後塚原により1点を先制する。
8回裏明星大は、この回先頭の代打・荒井が四球を選び出塁し犠打により二塁へ進塁。相手失策が絡み一死三塁とチャンスを作る。しかし後続が続かず、得点を挙げることができない。
9回表城西大は、塩田の安打等で二死二塁。長塚の適時打により2点を追加。
明星大は城西大の勢いに押され反撃することが出来なかった。
城西大は明星大に2-0で勝利し、2011年春季から4季ぶりに1部昇格を果たした。
(試合記事、写真は首都大学リーグホームページより)

2回戦
城西大・明星大の2回戦は城西大・先発鐘(たたら)、明星大・先発塚原の投手戦となった。試合が動いたのは7回表。城西大は、村田が相手失策で出塁すると、長塚が安打を打ち一死、三塁。その後塚原により1点を先制する。
8回裏明星大は、この回先頭の代打・荒井が四球を選び出塁し犠打により二塁へ進塁。相手失策が絡み一死三塁とチャンスを作る。しかし後続が続かず、得点を挙げることができない。
9回表城西大は、塩田の安打等で二死二塁。長塚の適時打により2点を追加。
明星大は城西大の勢いに押され反撃することが出来なかった。
城西大は明星大に2-0で勝利し、2011年春季から4季ぶりに1部昇格を果たした。
(試合記事、写真は首都大学リーグホームページより)

相手のミスで先制 鐘が完封

城西大・明星大の2回戦は城西大・先発鐘(たたら)、明星大・先発塚原の投手戦となった。試合が動いたのは7回表。城西大は、村田が相手失策で出塁すると、長塚が安打を打ち一死、三塁。その後塚原により1点を先制する。
8回裏明星大は、この回先頭の代打・荒井が四球を選び出塁し犠打により二塁へ進塁。相手失策が絡み一死三塁とチャンスを作る。しかし後続が続かず、得点を挙げることができない。
9回表城西大は、塩田の安打等で二死二塁。長塚の適時打により2点を追加。
明星大は城西大の勢いに押され反撃することが出来なかった。
城西大は明星大に2-0で勝利し、2011年春季から4季ぶりに1部昇格を果たした。
(試合記事、写真は首都大学リーグホームページより)

「苦しい2年」4年生、OBもバックアップ!! 小原沢重頼監督 Interview

勝利を手にした小原沢監督は、開口一番「苦しい2年間だった」。2011年春季リーグで2部落ちが確定し「秋にはすぐに1部に復帰しよう」とをスローガンに取り組んだ。その秋季リーグではグループでは優勝したものの小原沢監督がかつて率いた明星大学に2部リーグ優勝決定戦で敗れ、苦杯をなめた。さらには2012年春季リーグでは、リーグ4位「最下位に等しい」という大惨敗を喫した。これによって今年度の4年生は卒業までに1部に復帰することが不可能となった。
しかし、そこで奮起したのがその4年生だった。主将の大杉竜士(現代4、関西高)を中心に、1部復帰に向けてチームをまとめた。レギュラーとして出場する選手はチームを率いてトレーニングに励み、サポートに回る者は、4年生でも、1年生や2年生のレギュラー選手のマッサージを買って出たり、チームのマナーメントに回ったり、卒業生も選手の身体のケアや応援など、チームのバックアップを買って出た。古豪として名を馳せた城西だが、2部低迷の期間は、そのプライドを捨て、新たにチャレンジャーとして生まれ変わった2年間でもあった、と監督は振り返る。

チームが一つになった
「今回の勝因はまさに4年生にある」と監督は指摘した。「自分たちはもう1部でプレーできないが、何とか後輩に選手権を残して卒業したい、その意地と執念の結果です。本当に4年生には感謝しています」
2013年は4季ぶりに城西が首都リーグ1部で戦う姿を見ることが出来る。監督は、最後に「チャレンジャーの精神を忘れず、まずは着実に戦いたい。そしてまた1部の頂点を狙えるチームを作りたい。これまで、忍耐強く応援し支えてくださった水田選手理事長、草野素雄部長、大学関係者をはじめ、多くの方々に感謝したい」
古豪・城西大学が復活する日は近い。